

課題名	頸動脈狭窄に対する治療方法に関する研究
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 新規に導入される医療</li> <li>(2) 保険診療の対象とならない医療</li> <li>(3) 患者に不利となる可能性のある医療</li> <li>(4) その他 ○</li> </ul>
研究責任者	福島大輔
概要	<p>頸動脈狭窄症は脳梗塞を起こす原因となる主要な疾患である。当院でも頸動脈狭窄症に対して内科的治療に加えて外科治療を積極的に行っている。外科治療は直接プラークを摘出する血栓内膜剥離術（CEA）と、狭窄部をステントで拡張させるステント留置術（CAS）に分けられる。現在どちらの治療も確立されているが、どちらが有意であるかは定まっていない。当院でも両治療を使い分けており、2017年からCEAは約90例、CASは約100例施行された。この患者背景、治療内容、治療成績を後方視的に比較検討し、今後の治療方針の決定に寄与する因子を検討する。検討結果は日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会等で発表の予定である。</p>